

1 学校名・教科型

三次市立十日市小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	84	89	83	101	84	87	528	14	542
学級数	3	3	3	3	3	3	18	3	21

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年い組 (担任:A)	担任外	担任外	C	推進	A	担任外	C	C	A	A	A	A	担任外
6年ろ組 (担任:B) 【推進教員】	担任外	担任外	C	推進	A	A	C	C	A	推進	推進	推進	推進
6年は組 (担任:C)	担任外	担任外	C	推進	A	A	C	C	A	C	C	C	推進

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

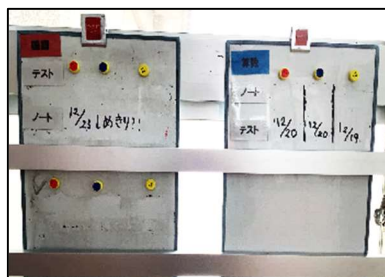
<効果のあった取組>

- ① 一人の教員が全クラスを担当し、同じ授業を複数回実施
 - ・ 児童のつまずきの把握とフォロー
 - ・ 同じ教科の教員で集まり、教材研究や評価について協議
- ② 短時間での児童の状況交流の積み重ね(業間・放課後)
- ③ 前学年・次学年とのつながりを意識した指導
 - ・ 4年生から教科担任制を導入
- ④ 学級担任の空き時間の確保
 - ・ 次週の大まかな週案は、各学年の週案担当者が作成
- ⑤ 他の学級の作品を見合ったり交流したりする場を設定
 - ・ 教科ごとに見通しをもてるようにボードを作成

【6年生】各教室に設置

【5年生】廊下に設置

教科	内容	準備物
国語	日本文字文化	タブレット
書写	習字道具	習字道具
算数	身の回り問題解決	
社会	テスト(1/1)	
理科	電気	タブレット
音楽	合奏	リコーダー



<成果>

- ① 本校は3クラスあるため、1回目の授業を改善した上で2回目の授業に臨むことができ、授業改善を図ることができた。
 - どこで何につまずいているのかを教科ごとに把握することができ、授業の中でフォローすることができた。また、宿題は担任が見ているので、担任も協力してフォローすることができた。

年度当初の目標

基礎学力の向上（単元末テストの正答率 期待値+3ポイント以上）

結果 第6学年算数科

単元末テスト（知識・技能）の正答率 期待値+3ポイント以上を3クラスとも達成できた
単元の割合 88%

- 本校は、研修の時間に教材研究をする時間を設けている。その時間に、同じ教科を担当している教員で集まり、教材研究をしたり、評価の仕方について協議したりすることで、組織的に授業改善に取り組むことができた。
- ② 短い時間でも、それぞれの授業中の児童の様子を話すことで、自分が担当している教科以外の児童の様子を知ることができ、多面的に児童を理解することができた。また、各教員の児童理解に対する見方に触れることができ、児童の見方を広げることができた。
 - 気になる児童についても、指導について学年会全員で考えることで複数の意見を取り入れた。また、全員で見守り、それぞれの立場から指導することで、生徒指導においても組織的に行うことができた。
 - 学年を横断した取組がしやすくなり、複数の教員で児童のがんばりを見取ることができた。



- ③ 同じ教科に絞って教員同士で話をするすることで、前学年や次学年との系統性がより明確になり、指導に生かすことができた。また、教科によっては授業の流れを揃えるなど、学年が上がっても同じ流れで学習が進められるように整理することができた。
 - 昨年度までは、5・6年生で教科担任制を行っていたが、今年度から4年生でも実施している。いろいろな教員と関わる経験を2～3年してから中学に入学することができ、中学校からの学習に不安をもつ児童が年々減ってきている。

小学校教科担任制に関するアンケート結果（児童用）

問の中学校から教科ごとに先生が代わることに對して、不安がなくなりました。

肯定的回答（%）

R 4	R 5	R 6
85.5	86.8	91.7

- ④ 空き時間が増え、授業準備を行う教科数が減ったことで、担当する自分の教科や学級経営等にあてることができた。
 - 以前は次週の週案を各担任が作成した後、調整していたので、週案を確定するまでに時間がかかった。今年度は、各学年の週案担当者が次週の週案を作成している。微調整を行うだけなので、学年会の時間に短時間で週案を作成することができるようになった。

- ⑤・ ②でも述べたように、学年全体で1つのことに取り組むことができるため、参考になる作品がたくさんあることや、クラス以外にも互いが高め合える存在がいることで児童の意欲を高めることができた。
- ・ 教科ごとに提出物やテストの日が異なるため、教科ごとに連絡ボードを作成したことで、児童も教員も見通しがもちやすくなった。

＜課題＞

- ①・ 学年に同じ教科を担当している教員がいないため、日々の授業改善や学習進度等の打ち合わせができない。
- ④・ 時間割の作成にしぼりが多く、調整が難しい。
 - ・ 移動教室のある教科を一人の教員が複数担当するときには、準備が忙しい。
- ⑤・ 担当の教員の休みが続いたとき、他の教員が進めることが難しい。



＜対策＞

- ①・ 担任は空き時間があるときは、できるだけ教室で過ごし、他の教員の授業を見ながら丸付けや教材研究を行い、日常的にお互いの授業についての話をする機会を増やす。
- ④・ 年度当初の時点で、教科の担当を決めるときに時間割の配慮を行う。
- ⑤・ 週案をもとに、誰がどのクラスのどの時間に担当するか、教務主任が素早く割り振るようにしている。